



株主の皆様には平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

第3四半期累計決算において、売上高は前年同期に対し微増であったものの、営業損益は前期に実施した事業構造改革の効果および徹底したコストダウン、経費圧縮等により、前年同期に比べ大きく好転し、7年ぶりの黒字化を達成しました。

当社は、2015年度中期経営計画に掲げる売上高8,500億円、営業利益450億円の達成に向け、「成長基盤の確立」「収益力の強化」に取り組んでいます。「攻めの経営元年」と位置付ける今年度は、タイにおける変圧器メーカーの買収や新工場稼働、山梨製作所でのパワー半導体最新工場の稼働開始など、基盤づくりが着実に進展し、具現化してきました。加えて、太陽光発電システムや産業設備の省エネ化に貢献する機器・システムの受注も好調に推移しています。また、一層の収益力強化に向け、抜本的な業務プロセスの見直しによる業務品質向上を目指す「Pro-7活動」をグループ全社運動として推進しています。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

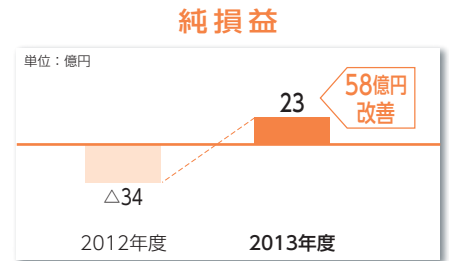
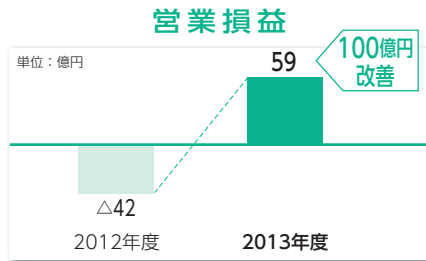
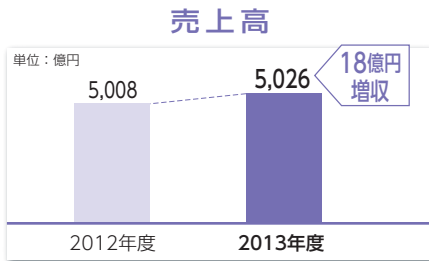
2014年2月

富士電機株式会社
代表取締役社長

北澤通宏

2013年度第3四半期累計決算(4月~12月)

電子デバイス、パワエレ機器、食品流通の貢献により、大幅な損益好転となりました



セグメント別状況

	売上高			営業損益		
	2012年度	2013年度	増減	2012年度	2013年度	増減
発電・社会インフラ	994	873	Δ121	Δ3	Δ9	Δ6
産業インフラ	1,227	1,087	Δ140	4	Δ13	Δ17
パワエレ機器	1,035	1,186	151	Δ19	17	36
電子デバイス	802	935	134	Δ38	40	79
食品流通	805	875	70	37	52	14
その他	454	440	Δ14	14	16	2
消去または全社	Δ309	Δ370	Δ61	Δ37	Δ43	Δ7
合計	5,008	5,026	18	Δ42	59	100

売上高 前年同期に比べ 18億円増収の5,026億円

パワエレ機器はインバータの需要増に加え、メガソーラー向けパワーコンディショナおよびデータセンタ向け電源設備の需要が増加しました。電子デバイスはパワー半導体において、自動車分野が引き続き堅調に推移したほか、産業分野の需要が回復基調で推移しました。食品流通は省エネ型環境対応自販機に加え、コンビニエンスストア向けコーヒーマシンの需要も寄与し、堅調に推移しました。

一方、発電・社会インフラおよび産業インフラは、前期に大口案件の計上があった影響などにより減収となりました。

営業損益 前年同期に比べ 100億円改善の59億円

電子デバイス、パワエレ機器は増収効果および前期に実施した事業構造改革の効果等により、大幅に損益が好転しました。食品流通は増収効果および原価低減の推進により増益となりました。

一方、発電・社会インフラおよび産業インフラは、原価低減を推し進めたものの、売上高の減少を補えず、減益となりました。

純損益 前年同期に比べ 58億円改善の23億円

2013年度通期業績予想

通期業績予想は前回発表(2013/10/24予想)と変更ありません

	売上高	営業損益	純損益
2012年度(実績)	7,458	220	264
2013年度(予想)	7,550	300	160

単位：億円

※前提為替レート 1ドル=100円、1ユーロ=135円

株主様向け工場視察会を開催しました

川崎工場・三重工場において株主様向け工場視察会を実施しました。当日は、経営方針の説明のほか生産現場をご視察いただきました。ご参加いただいた株主の皆様からは、“生産現場を見学し、富士電機をより身近に感じるようになった”など高い評価をいただきました。

今後も株主の皆様へ富士電機をより一層ご理解いただくための視察会などを継続して実施してまいります。



経営方針を説明する北澤社長
(11/19、12/12の視察会に登壇しました)

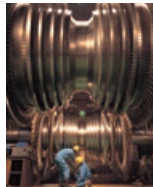
●川崎工場視察会 (11/19開催・105名参加)

発電設備の生産現場や製品の歴史などをご紹介します。



Check Point!

“熟練の技”でつくるタービン発電機



発電設備の心臓部である蒸気タービン。高速・高温の条件下での長期間にわたる安定稼働を支えるのは、機械が対応できない精度を実現する人の力です。視察会では、タービン翼をハンマーで1枚1枚打ち込む姿など、信頼性を支える“熟練の技”をご紹介します。

●三重工場視察会 (11/29開催・78名参加 / 12/12開催・68名参加)

自販機やコーヒーマシンの内部構造のほか、生産現場などをご紹介します。



Check Point!

コーヒーのおいしさを引き立てる技術



今話題のコンビニエンスストアのコーヒーマシン。これを支えるのは富士電機が培ってきたカップ自販機の技術です。一杯ずつペーパードリップで抽出する構造やコーヒー豆を最適な粒度で均一に粉砕する技術などが、上質で香り高いコーヒーを生み出しています。視察会では、普段は見えないマシン内部の動きをご覧いただきながらご賞味いただきました。

TOPICS

タイ新工場が操業を開始

2013年12月、アジア・欧米向け製品の中核生産拠点と位置付けるタイ新工場(タイ王国パトゥムタニ県)が竣工し、インバータ、無停電電源装置等の生産を開始しました。

今後、自販機、高圧インバータ、ガス絶縁開閉装置*等に生産機種を拡げていく計画です。日本・中国・アジアのグローバル3拠点生産体制により、さらなる競争力強化を進めます。

*発電所や変電所などに設置され、絶縁性のある気体中で電流の開閉を行う、信頼性・安全性の高い遮断器。



スマートメータの生産力強化

国内において発送電分離や電力自由化の動きを背景に、スマートメータの導入計画が進んでいます。当社においては、スマートメータ事業を担う子会社「GE富士電機メーター(株)[GFM](米国 General Electric社との合併会社)」が、東京電力(株)向け案件の落札会社の1社に決定しています。

こうしたなか、今後の案件受注と供給に向け、競争力のある生産体制の構築を目的とした設備投資を決定しました。スマートメータ市場において、確固たる地位を確立するとともに、特徴ある機器・システムの提供を通じて、スマートコミュニティの実現に貢献していきます。

[GFM 設備投資の概要]

- ・場 所：GE富士電機メーター(株) 安曇野工場
- ・投資計画：2014年度約10億円
2015年度約10億円



※写真は市販向けスマートメータ

Webサイトのご案内

▶▶▶ <http://www.fujielectric.co.jp/about/ir/>

当社の「株主・投資家情報」では、決算などの最新のIR情報や富士電機レポートによる事業紹介など様々な情報をご案内しています。是非ご覧ください。

「株主・投資家情報」検索はこちらから ▶

富士電機 IR

検索



本報告書の将来についての計画や戦略、業績見通しに関する記載は、作成時点において当社が合理的と判断した一定の前提に基づくものであり、実際の結果とは実質的に異なる可能性があり、当社はこれらの記載のうち、いかなる内容についても確実性を保証するものではありません。